

京都府の地震活動

平成31年（2019年）2月

第 32 卷 第 2 号

京都地方気象台

目 次

震央分布図、概況	・・・ 1
震央分布図、断面図	・・・ 2
【地震一口メモ】「ひずみ計」とは	・・・ 3

『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

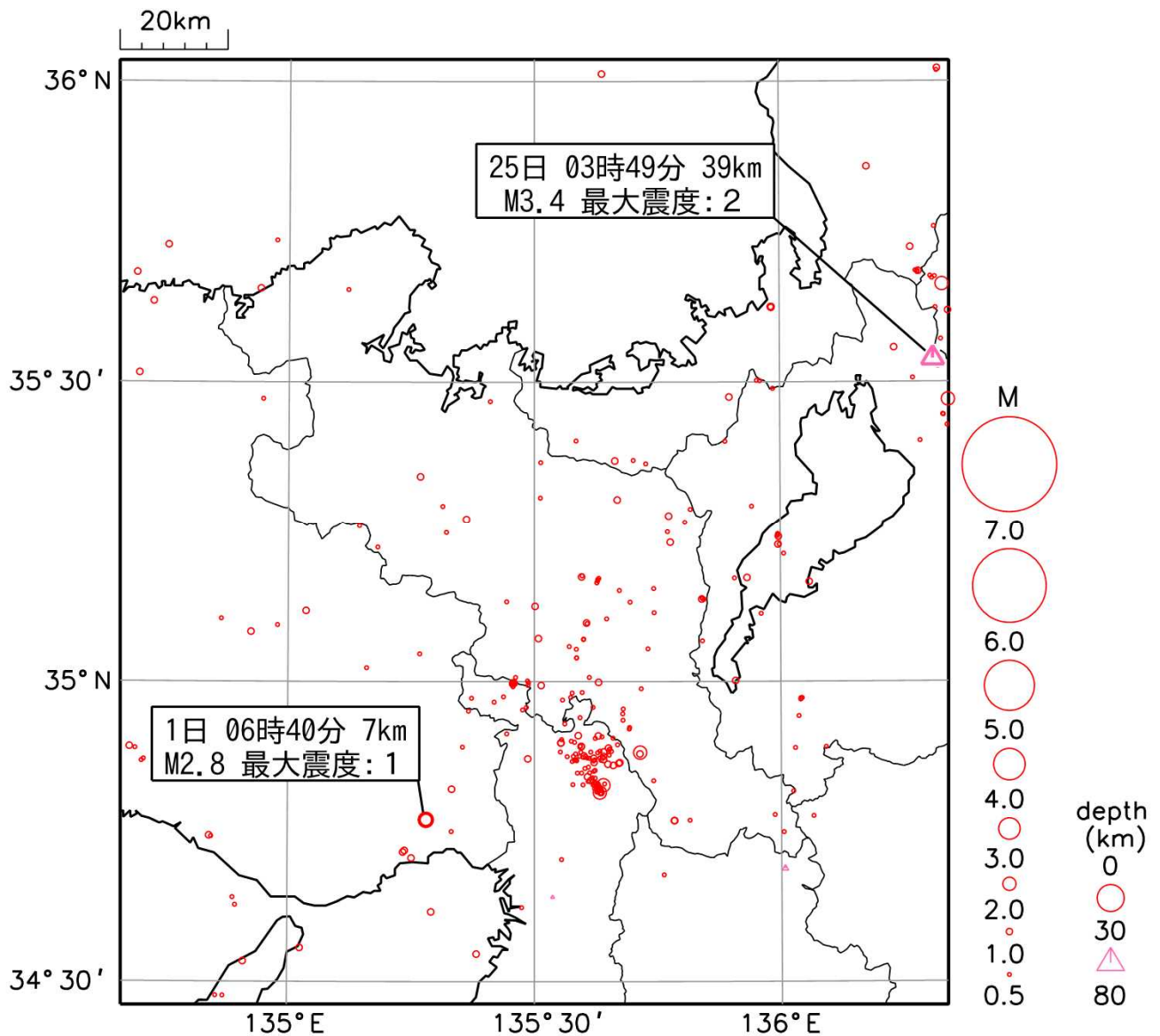
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

震央分布図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）

2019 02 01 00 : 00 - 2019 02 28 24 : 00

総数 : 293



- ・震源の深さを表す「○、△」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード（M）及び京都府内で震度を観測した地震については、京都府内最大震度を付記。

概況

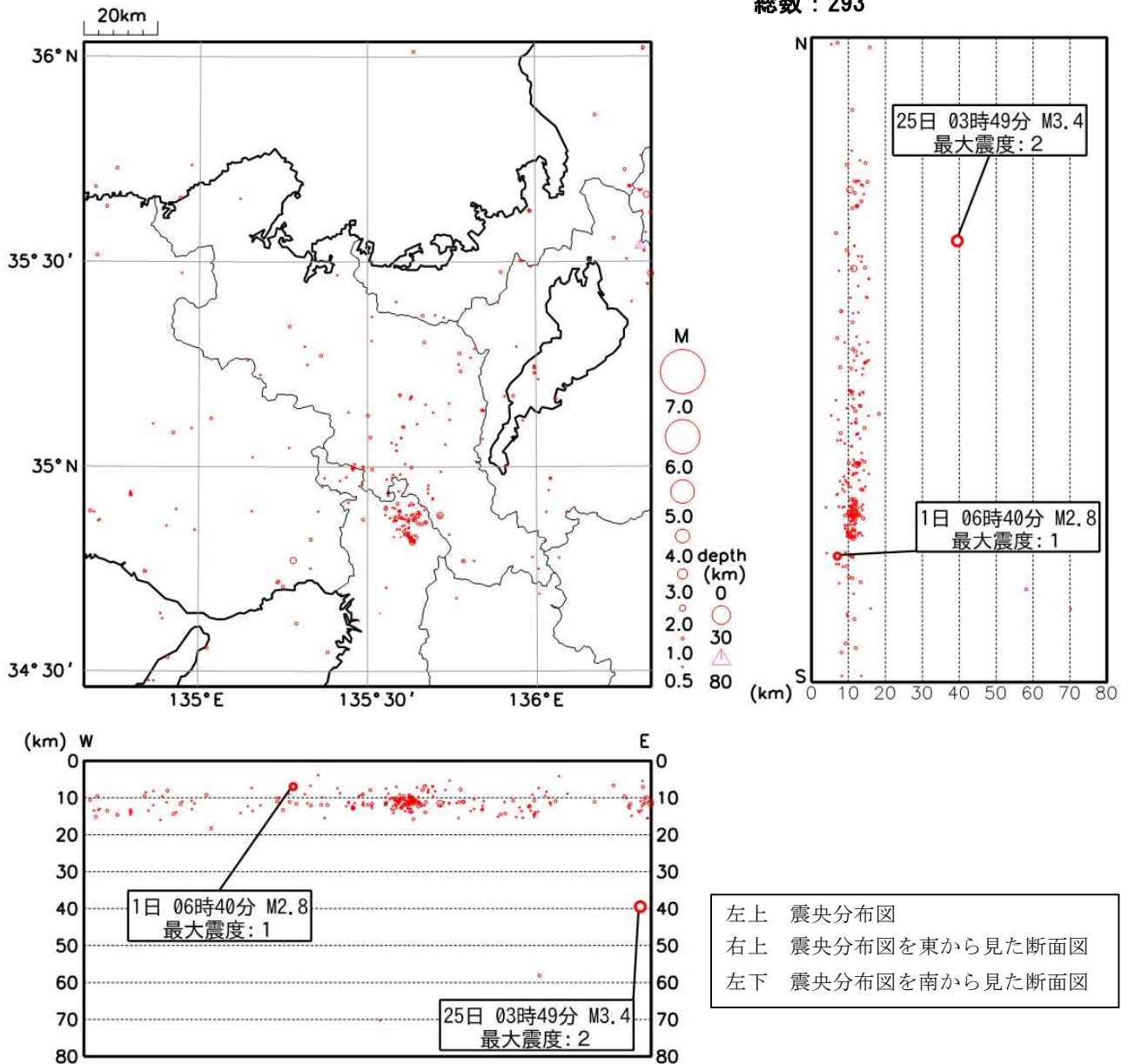
2月中、震央分布図内で観測したマグニチュード2.0以上の地震は7回、震度1以上の揺れを観測した地震は2回発生しました（1月はそれぞれ11回、1回）。

京都府内で震度1以上の揺れを観測した地震はありませんでした（1月は0回）。

震央分布図、断面図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）

2019 02 01 00:00 - 2019 02 28 24:00

総数：293



【地震一口メモ】

「ひずみ計」とは

～南海トラフ地震に関連する情報～

南海トラフ地震に関連する情報の発表にあたり、気象庁が調査を開始する対象となる現象を判断する為に用いているひずみ計について紹介します。

●ひずみ計

ひずみ計とは、地下の岩盤の伸び・縮みを非常に高感度で観測できる地殻変動の観測装置のことです。ボアホールと呼ばれる直径15センチメートル程度の縦穴を数百メートル掘削し、その底に円筒形の検出部が埋設されています。

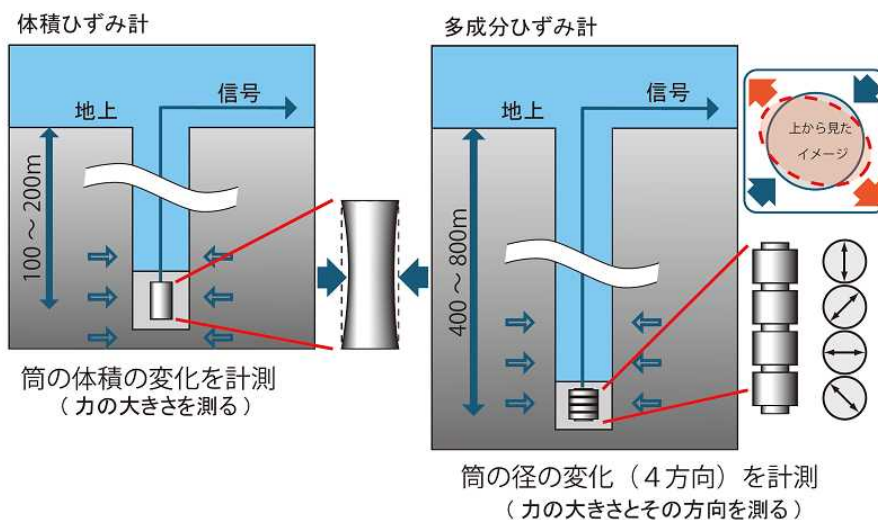
地下の岩盤は、周囲からの力を受けて、ごくわずかですが伸び縮みします。ひずみ計は、その検出部が岩盤と同じように変形することで、岩盤の伸び縮みを検出します。その精度はきわめて高く、岩盤の伸び縮みを10億分の1の相対変化まで測定します。この相対精度は、小中学校にあるプール（長さ25メートル、幅10メートル、深さ1.5メートル程度）に水を満たし、直径1センチメートルのビー玉を入れた時に生ずる、ごくわずかな体積の変化でも検出できる精度です。

プレート境界のゆっくりすべり等に伴うごくわずかな岩盤の伸び縮みを捉えるため、気象庁は東海地域にひずみ計による地殻変動の観測網を展開しています（静岡県が設置した観測点も含まれます）。各観測点の観測データは、常時、専用回線で気象庁に集約されます。このデータは、南海トラフ地震に関連する情報の発表のために使われています。

●体積ひずみ計と多成分ひずみ計

気象庁が設置しているひずみ計には、体積ひずみ計と多成分ひずみ計の2種類があります。

体積ひずみ計は、岩盤の伸び縮みによる検出部の体積の変化（体積ひずみ）を測定します。一方、多成分ひずみ計は、検出部の45度ずつ異なる4つの方位の直径の変化（線ひずみ）を測定します。体積ひずみ計ではひずみの大きさの変化を知ることができますが、多成分ひずみ計ではひずみの大きさに加えてその方向ごとの変化を知ることができます。



(参考) 観測点地図のリンク

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/kijyun_obs_points.html